



【黎明】 第3ステージ

令和2(2020)年度～

令和4(2022)年度

緊急学生支援（寄付金） R2実施

新ブロック体制 開始 R2実施

創立130周年慶祝

支部支援の強化 R3調整中

ウィズ・コロナ研究 R3～

新ブロック体制開始 R2実施

緊急学生支援 (寄付金) R2実施

ウィズ・コロナ研究 R3～

・ 会誌9号より抜粋

Presidential address

続「黎明」 希望のステージへ 多様な絆と新しい活動様式を求めて

日本体育大学同窓会
会長 塩谷 和雄



はじめに

会員の皆様には、平素より本会の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。また、法人、母校、そして、保護者会の皆様方には、日ごろ同窓会の活動を温かく見守っていただき、心より感謝致しております。

私儀、前任の橋本康二氏より会長職を継承し、はや年度末を迎えようとしております。この間、コロナ禍により、新年度体制でのスタートが遅れたことに加え、一堂に集っての会議や諸事業を中止・凍結する事態となり、会員の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。とりわけ、改選された全国7ブロック体制での新たな地区協議会(通称:ブロック会議)も断念せざるを得ず、関係支部はもとより、各所属支部の皆様には困難な対応に労を取っていただきました。この場をお借りして、衷心より御礼申し上げます。

「黎明」を継承、第3ステージへ

本席「黎明」を語る前に、触れておかなければなりません。それは、危機的状況にあった同窓会の運営基盤づくりに一層の望みをかけ、再生への道筋をつけてくださった先代々の権井達元会長、鈴木洋祐元幹事長をはじめ当時の本部役員の皆様、そして、法人・松後健四郎理事長、母校・

活性化への試行錯誤

事業実施後のアンケート結果等を集約すると、相応の成果がうかがえるものの、そうした取極の実実や教訓が、その後の組織活動や活性化に十分に反映できなかったと自省しています。他者と共有されない学びや一過性のイベントで終わることのないよう、既存の取り組みを反芻しながら、次の手立てを講じてまいりたいと思っております。

次に、組織体制についてですが、前述の通り、懸案の「ブロック改編」が実現する運びとなりました。現行の6ブロック体制から、保護者会と歩調を合わせた7ブロックへと編成替えを図ったもので、「関東」と「近畿」がそれぞれ独立

▼別表1: 同窓会事業の年次推移

| 事業名 | 実績(単位:人) | | | | | | | 赤枠は今年(予定) | | |
|----------|----------|------|------|------|------|------|------|-----------|------|--|
| | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | |
| 総務部 | 123 | 124 | 125 | 126 | 127 | 128 | 129 | 130 | 131 | |
| 教育部 | 132 | 133 | 134 | 135 | 136 | 137 | 138 | 139 | 140 | |
| 文化・スポーツ部 | 141 | 142 | 143 | 144 | 145 | 146 | 147 | 148 | 149 | |
| 健康・福祉部 | 150 | 151 | 152 | 153 | 154 | 155 | 156 | 157 | 158 | |
| 国際交流部 | 159 | 160 | 161 | 162 | 163 | 164 | 165 | 166 | 167 | |
| 総務部 | 168 | 169 | 170 | 171 | 172 | 173 | 174 | 175 | 176 | |
| 教育部 | 177 | 178 | 179 | 180 | 181 | 182 | 183 | 184 | 185 | |
| 文化・スポーツ部 | 186 | 187 | 188 | 189 | 190 | 191 | 192 | 193 | 194 | |
| 健康・福祉部 | 195 | 196 | 197 | 198 | 199 | 200 | 201 | 202 | 203 | |
| 国際交流部 | 204 | 205 | 206 | 207 | 208 | 209 | 210 | 211 | 212 | |

するとともに、「北信越」と「東海」が新設合併、今年度からの施行となりました。

この間、特に「関東・北信越」及び「近畿・東海」両ブロックの皆様には、度重なるご協議をいただき、大変なご苦勞をおかけしました。実質的な輸出は先送りとなりましたが「国結和協」の幹、保護者会との連携が深まるよう切に願っております。

一方、本部組織について、平成29年度に委員会体制を発展的に解消し、「チーム・部門」制を導入するとともに、役員会の下部に「執行部会」を新設することになりました。この議論によって、旧役員も新役員もアップ・ヘルプ(Aufheben=止揚)されたことからであります。(後略)

「別表2: 同窓会本部役員構成比」をご覧いただければ、そうした変化へのチャレンジがご理解いただけるものと思います。

第2期目の総括をする中で、橋本前会長は次のような回顧録を残されています。

「私は、前半3年間の反省から先ず本部の組織改革を提案させて頂きました。それは事業計画が4期実行に移せる組織でなければならぬとの考えからでありました。会長を中心とする「執行部会」制度を設けさせて頂きました。組織改革と同時に必要なのは役員人事です。そこには過去の慣習に囚われることなく適材適所の原則を重視しました。2期目の1年目、2017年度の新役員を迎えた最初の役員会でハズン

▼別表2: 同窓会本部役員構成比

| 役員 | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | 2022年度 | |
|----------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 |
| 総務部 | 12 | 12% | 13 | 13% | 14 | 14% | 15 | 15% | 16 | 16% | 17 | 17% |
| 教育部 | 13 | 13% | 14 | 14% | 15 | 15% | 16 | 16% | 17 | 17% | 18 | 18% |
| 文化・スポーツ部 | 14 | 14% | 15 | 15% | 16 | 16% | 17 | 17% | 18 | 18% | 19 | 19% |
| 健康・福祉部 | 15 | 15% | 16 | 16% | 17 | 17% | 18 | 18% | 19 | 19% | 20 | 20% |
| 国際交流部 | 16 | 16% | 17 | 17% | 18 | 18% | 19 | 19% | 20 | 20% | 21 | 21% |
| 合計 | 100 | 100% | 100 | 100% | 100 | 100% | 100 | 100% | 100 | 100% | 100 | 100% |

グが起りました。それは、新役員と旧役員の間で生じた大きな意見の相違から生じたものです。大切な役員会のスタート時点で混乱を招いた責任は会長にあります。改めて関係各位に謝罪しなければなりません。一方でその混乱に感謝して頂いています。なぜなら、その混乱は極めて重要な議論であり、同窓会活性化の第1歩であったと超えているからです。一見矛盾しているようですが、そうではありません。この議論によって、旧役員も新役員もアップ・ヘルプ(Aufheben=止揚)されたことからであります。(後略)

新しい生活様式、ウィズ(With)コロナ

昨年度は、重点イベントを組んだ民間・企業部門を除き、執行部会やチーム・部門のミーティングを定期開催することができませんでした。本部役員の新選りなどの刷新を図ったもの、大学・企業・行政機関等に従事する現職者が多く、多忙を極める中で、話し合いの場づくりや協議時間の確保が難しいことが主な理由でした。また、スケジュール調整が叫ばれた民間・企業部門でさえ、夜間土日開催となり、家庭生活や仕事へのシフトが生じたり、新からの「働き方改革」に逆行せざるを得ない結果となりました。

現状打破に向けて、会議の在り方を模索していたところへ、突如やって来た新型コロナウイルス、感染拡大の脅威や医療崩壊・経済危機をめぐる不安が絶えない生活が続いていますが、そんな中で、自由の伴った人間としての接触を減らすための「新しい生活様式」、長期戦や撲滅困難を前提とした「ウィズ(With)コロナ」など、共生・共存の戦略が唱えられています。

同窓会活動においても、感染防止対策は当然のこととして、会員・役員の情報スキルを考慮しながら、オンライン会議システム等の新たな活動様式、モノ・コトのデジタル化、会議・集議の仕組みづくりなどを模索・研究してまいりたいと思います。

学生への緊急支援

コロナ禍の影響による困窮学生の存在が深刻な問題となっています。母校においても、保護者の収入や自身のアルバイト等の影響で進学を余儀なくされた学生が多数存在しているとのこと、困難な状況に置かれ、修学を断念せざるを得ない学生(準会員)に対して、迅速に支援の手を差し伸べることが重要と判断し、5月の臨時代議員会(通信)にて緊急提案、全会一致で法人の「健福奨学金」への寄付金拠出を行わせていただきました。

誌面をお借りして、全国同窓会の皆様へ改めて御礼を申し上げます。

新しい生活様式、ウィズ(With)コロナ

昨年度は、重点イベントを組んだ民間・企業部門を除き、執行部会やチーム・部門のミーティングを定期開催することができませんでした。本部役員の新選りなどの刷新を図ったもの、大学・企業・行政機関等に従事する現職者が多く、多忙を極める中で、話し合いの場づくりや協議時間の確保が難しいことが主な理由でした。また、スケジュール調整が叫ばれた民間・企業部門でさえ、夜間土日開催となり、家庭生活や仕事へのシフトが生じたり、新からの「働き方改革」に逆行せざるを得ない結果となりました。

現状打破に向けて、会議の在り方を模索していたところへ、突如やって来た新型コロナウイルス、感染拡大の脅威や医療崩壊・経済危機をめぐる不安が絶えない生活が続いていますが、そんな中で、自由の伴った人間としての接触を減らすための「新しい生活様式」、長期戦や撲滅困難を前提とした「ウィズ(With)コロナ」など、共生・共存の戦略が唱えられています。

同窓会活動においても、感染防止対策は当然のこととして、会員・役員の情報スキルを考慮しながら、オンライン会議システム等の新たな活動様式、モノ・コトのデジタル化、会議・集議の仕組みづくりなどを模索・研究してまいりたいと思います。

学生への緊急支援

コロナ禍の影響による困窮学生の存在が深刻な問題となっています。母校においても、保護者の収入や自身のアルバイト等の影響で進学を余儀なくされた学生が多数存在しているとのこと、困難な状況に置かれ、修学を断念せざるを得ない学生(準会員)に対して、迅速に支援の手を差し伸べることが重要と判断し、5月の臨時代議員会(通信)にて緊急提案、全会一致で法人の「健福奨学金」への寄付金拠出を行わせていただきました。